

# なごや子ども応援委員会との連携協力

**代表者** 人間文化研究科 教授 久保田健市

**連絡先** kubota@hum.nagoya-cu.ac.jp

**連携・協力者** 名古屋市教育委員会

**ポイント**

人間文化研究科教員の専門性を活かした実践的で先進的な取組です

## 1 概要

- 本学と名古屋市教育委員会は、相互の人的・知的資源の交流・活用の促進を通じ、高校教育・大学教育の活性化及び生涯学習等の一層の推進を図ることを目的に平成 26 年に連携協力協定を締結し、さまざまな連携活動を実施しています。
- この連携活動の主たるものとして、人間文化研究科に所属する心理学、社会福祉学及び教育学専門の教員が、「なごや子ども応援委員会」の人材育成等をバックアップする事業を継続して行っています。

## 2 活動内容

- 令和 3 年度「ナゴヤ子ども応援大綱」が「理念」を反映したものに改正されました。本年度は昨年度に引き続き、名古屋市教育委員会、名古屋市教育センター、名古屋市校長会との連携のもと、「一人ひとりの人生の基盤としての理念」が教育現場で活用され浸透していくように努めました。その一端として、教育センターで行われた初任者研修会で昨年度作成した動画を紹介しました。
- 「学校援助職の活動と課題についての調査」、並びに「子ども応援委員会に対する生徒・保護者・教員の認知度の分析」をテーマとする研究委託を受け、報告書をまとめました。

### ナゴヤ子ども応援大綱

~ 日本で一番子どもを応援し、一人の子どもも死なせないマチ ナゴヤ ~

「一人ひとりの人生の基盤としての理念」に基づく支援を推進！

「一人ひとりの人生の基盤としての理念」～あなたもわたし「いま、ここ」にいたいと思える場をつくる～

○「働くあるまじき」～ある一人ひとりの人生

・子どもも大人もすべての人がそれぞれの「生（いのち）」を全うする、権利ある主体者です。

・すべての人の「生」が尊厳され、生きられる社会に向けて、一人ひとりの権利を保障します。

○「いま」ができるコミュニティ

・一人ひとりが「人」とつながりを感じられるよう、継続的で応答的な関係をつくります。

・一人ひとりが未来につながる体験をし、「いま」ことができるコミュニティを実現します。

○一人ひとりがいられる居場所づくり

・つながりのなかで「いま」ことが実感できる居場所をつくります。

・「あなた」が「いま、ここ」にいたいと思える環境づくりに変わるのは「わたし」たち一人ひとりです。

教員に加え、子どもを守る専門家の学校への配置を推進し、人生を生き延びるスキルを子どもたちが自ら考え・学ぶ環境づくりを推進！

○学校は子どもを守ることであり、福祉的な役割があることを確信します。

また、学業不振で悩む子どもたちが、幸せを感じ、将来の道に希望を持つことができるよう応援します。

そのための施策の位置づけ、専門職（スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーなど）や専任支援教員の配置を行い、子どもを守るために予算は惜しみません。また、高校入試改革にも取り組みます。

○常勤の統合援助職、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールセクレタリー、

スクールボリスからなるチームで子どもを応援する日本初の仕組み「なごや子ども応援委員会」により、悩みを解決し、目前の道筋にとどまらず「大きくなったら何になるの？」と一緒に考えて、将来の針路を応援します。

○学校にキャリアの専門家の配置を推進し、人生を生き延びるスキルを子どもたちが自ら考え、自ら学ぶ環境づくりに取り組むことで、子ども一人ひとりの針路を応援します。

○独立性が確保された第三者機関として設置した子どもの権利擁護機関と積極的に協力・連携するなど、子どもの権利に正面から全庁的に取り組みます。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の第 1 項に規定する大綱として、  
上記のとおり定める。  
平成 26 年 3 月 24 日  
平成 26 年 3 月 4 日改正  
平成 30 年 1 月 13 日改正  
令和 3 年 1 月 10 日改正

名古屋市長 沢村アキラ

ナゴヤ子ども応援大綱

## 3 成果

- 「一人ひとりの人生の基盤としての理念」が教育現場で活用され浸透していくように、名古屋市教育委員会と連携してつくった動画を活用した指導例を作成し、名古屋市立小中学校長会、教務主任者会で紹介したところ、さっそく校内で活用していただいた学校もありました。
- 研修を通じて、子ども応援委員会所属のスタッフの質の向上に貢献しました。